

修士論文（要旨）  
2022年1月

中国の農村部に居住する高齢者の孤独感の現状及び関連する要因  
—中国山西省を例として—

指導 長田 久雄 教授

老年研究科  
老年学専攻  
220J6007  
張 子銘

Master's Thesis(Abstract)  
January 2022

Current status and related factors of loneliness among the elderly living in rural China  
: Taking Shanxi Province, China as an example

Ziming Zhang  
220J6007

Master's Program in Gerontology  
Graduate School of Gerontology  
J. F. Oberlin University  
Thesis Supervisor: Hisao Osada

## 目次

第1章 はじめに .....	1
1.研究背景.....	1
2.先行研究.....	1
3.研究目的.....	2
4.仮説 model.....	3
第2章 研究方法 .....	3
1.調査対象と調査方法.....	3
2.調査時期.....	3
3.調査内容.....	4
4.倫理的配慮.....	4
5.分析方法.....	5
第3章 結果 .....	5
1.対象者の特性.....	5
2.各変数の実態.....	5
第4章 考察 .....	8
おわりに.....	10
謝辞.....	10
引用文献.....	1

## 第1章 緒言

### 1.研究背景

中国の人口は世界一である。中国第七回人口センサス<sup>1)</sup>のデータによれば、2020年には中国総人口はすでに14億1178万人に達していた。また、中国の総人口中に占める65歳以上の老年人口は13.5%であり、今後も増加が続くと予測されている、今の中国はすでに高齢社会になった。高齢社会の課題の一つに高齢者の孤独感があり、対応しなくてはならない重要な課題となっている。

#### 中国山西省の現状

1978年に「一人っ子政策」が実施された以来、山西省の出生率の低下は著しく、山西省の人口の年齢構造に重大な変化が生じている。すなわち、高齢者の割合が大幅に上昇し、高齢化の速度は早く、65歳以上の高齢者人口割合は1982年の3.7%上昇し、2020年までに12.9%となっている。国連による人口高齢化の基準によれば、山西省は2011年に高齢化が進んで、65歳以上の高齢者人口割合が7.58%となり、高齢化社会となっている。

### 2. 先行研究

孤独感はどのような要因と関連しているであろうか。青木(2001)<sup>2)</sup>の報告では性差は有意ではなかった。関連要因に関しては、男性では抑うつ状態、生活満足度、対人自立的対処、家族親戚ソーシャルサポートの4要因が見出されており、女性では抑うつ状態、生活満足度、対人自立的対処、家族親戚ソーシャルサポート、友人ソーシャルサポートの5要因が指摘されている。長田ら(2000)<sup>3)</sup>は、UCLA孤独感尺度に基づき中高年の孤独感を調べるために適していると考えられる、AOK孤独感尺度を開発したが、男性のほうが孤独感が強く、性、学歴、健康度自己評価、配偶者の有無、友人から手段的サポート提供者数が孤独感と関連していることが明らかにされている。张玉梅ら(2019)<sup>4)</sup>は、高齢者の59.91%がさまざまな程度の孤独感を持っており、この中で、79.16%の空巢老人であり、空巢ではない高齢者では34.68%が孤独感を持っていることを明らかにし、空巢老人はそれ以外の高齢者より孤独感が強いと報告している。孤独感の関連する要因として、空巢の程度、婚姻の状態、健康度、生活満足度を見出している。

### 3.研究目的

中国山西省は黄土高原が広がる地域であり、都市部に比べ貧困世帯が多く、近年は若年層の都市部移住が進み、「空巢家庭」(単身の高齢者世帯)が増加している。これまでに「空巢家庭」の高齢者は、医療へのアクセス不備や閉じこもり傾向が指摘されている。そこで、本研究では過疎化が進む、中国山西省の農村部に住む高齢者の孤独感とその関連要因について検討することを目的とした。

### 4.仮説 model

第1の仮説は今回対象とした中国山西省の農村部では、男性と女性の孤独感に差があるというものである。

第2の仮説は独居の方が孤独感が高いというものである。

第3の仮説はLSNS-6(日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版)の得点が低い人

の方が孤独感が高いというものである。

第4の仮説はペットのいない人の方が孤独感が高いというものである。

## 第2章 研究方法

### 1.調査対象と調査方法

本研究の方法としては、中国山西省A村に居住する65歳以上の高齢者に対して、研究者がA村の選挙管理委員会を訪問し、自記式のアンケート調査を依頼した。本研究の目的を紙面および口頭で説明し、同意書に署名をいただき同意を得た。その後、会場でアンケート票を配布し、記入してもらい、回収箱を使用して回収した。

### 2.調査時期

2021年9月から2022年11月の間である。

### 3.調査内容

調査内容は、以下に示す通り、基本属性、UCLA孤独感尺度、社会的活動、ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポートであった。

- (1) 基本属性
- (2) UCLA孤独感尺度
- (3) 個人、社会的活動
- (4) ソーシャルネットワーク
- (5) ソーシャルサポート

### 4.倫理的配慮

本研究は桜美林大学研究倫理委員会の承認（No.21009）を得て実施した

### 5.分析方法

基本属性に関する項目については記述統計を行い、孤独感の関連要因の分析にはt検定を行い、孤独感と関連要因の相関係数算出後、重回帰分析を行った。統計解析ソフトはSPSS ver22.0 for windowsを用いた。

## 第3章 結果

### 1.対象者の特性

表1 分析対象者の特性

項目	人数 (%)	項目	人数 (%)
----	--------	----	--------

性別	男性	44 (40.3)	仕事の有無	あり	18 (16.5)
	女性	65 (59.7)		なし	91 (83.5)
年齢	平均値±SD	73.9 (4.5)	月收入	1000 元未満	85 (78.0)
学歴	小学校	53 (48.6)		1000 元以上	24 (22.0)
	中学校以上	56 (51.4)	慢性病の有無	1.2 種	29 (26.6)
配偶者	あり	62 (56.9)			2 種以上
	なし	47 (43.1)	ベット	あり	24 (22.0)
子供の数	一人	21 (19.3)			なし
	二人以上	88 (80.7)	スマートフォンの有無	あり	39 (35.8)
世帯構成	独居	30 (27.5)			なし
		独居ではない	79 (72.5)		

## 2. 各変数の実態

対象者の特性と孤独感の関連について示す (表 2)

表 2. UCLA 孤独感尺度得点と関連項目

項目	得点		検定
	平均	標準偏差	p 値
性別			
男性	49.4	8.7	.04*
女性	52.7	7.1	
学歴			
小学校	53.3	6.3	.01*
中学校以上	49.5	8.8	
配偶者の有無			
あり	50.4	8.8	.17
なし	52.5	6.5	
子供の数			
一人	55.1	10.1	.06
二人以上	50.5	7.0	
世帯構成			
独居	54.6	7.5	.007**
独居ではない	50.1	7.9	
仕事の有無			
あり	51.2	5.7	.93
なし	51.4	8.3	
月收入			
1000 元未満	51.7	8.3	.29
1000 元以上	50.0	6.2	
慢性病の有無			
1.2 種	51.5	7.9	.84

2 種以上	51.2	7.8	
ペット			
あり	49.5	8.8	.23
なし	51.9	7.6	
スマートフォンの有無			
あり	50.9	8.2	.69
なし	51.6	7.8	

#### UCLA 孤独感との相関分析

年齢	相関係数	.154
	有意確率	.110
個人社会的活動	相関係数	-.179
	有意確率	.062
LSNS-6	相関係数	-.297**
	有意確率	.002**
ソーシャルサポート	相関係数	-.207*
	有意確率	.031*
就学年数	相関係数	-.238*
	有意確率	.013*
配偶者の有無	相関係数	.132
	有意確率	.171
子どもの数	相関係数	-.184
	有意確率	.055
世帯構成	相関係数	-.199*
	有意確率	.038
仕事の有無	相関係数	.007
	有意確率	.945
月收入	相関係数	-.088
	有意確率	.365
慢性病の有無	相関係数	-.005
	有意確率	.960
ペットの有無	相関係数	.127
	有意確率	.188
スマートフォンの有無	相関係数	.039
	有意確率	.683

表 3 には重回帰分析の結果を示してある。

表 3.孤独感に関連する要因についての重回帰分析の結果

独立変数	$\beta$	t
------	---------	---

性別	3.041	.038*
LSNS-6	-.541	-4.156**
世帯構成	-2.282	-2.442*
ペットの有無	3.091	1.886

\*p < .05, \*\*p < .01, \*\*\*p < .001

#### 第4章 考察

孤独感の関連要因について、対象者の性別、就学年数、世帯構成において孤独感との関連がみられた。UCLA 孤独感尺度得点を従属変数とする重回帰分析では、性別、LSNS-6、世帯構成の変数において有意な関連が認められた。以上のことから、性別を考慮しながら社会活動に対する支援を行うことが、孤独感の軽減につながる事が考えられる。

#### おわりに

最後に本研究の課題について述べておく。第1に、本研究対象は山西省のA村の65歳以上高齢者に限られている、したがって本研究結果を一般化するには更なる検討が必要である。第2に在宅高齢者でも、質問紙調査に応じられる者が対象をなした可能性があり、結論を十分に一般化することはできない。しかし、中国農村部の高齢者の孤独感の実態やその要因を実証した研究として一定の意義を有しているものとする。第3に、高齢者の孤独感の研究についてはUCLA孤独感尺度短縮版を使用して孤独感を測定し、その関連要因を調査研究した知見が主であり、かつ研究蓄積も少ない。そのため、高齢者の孤独感の正確な実状の把握や関連、規定要因の確定は今後の課題である。できれば、国の生活、文化に基づく孤独感尺度を開発して、研究を進めることが必要であろう。

#### 謝辞

調査にご協力くださいました中国山西省A村の村民委員会及びA村の皆さまに深申し上げます、本研究にあたりご指導賜りました桜美林大学大学院教授渡中谷陽明先生、同教授辺修一郎先生に感謝申し上げます。

## 引用文献

1) 中華人民共和国国家統計局

[http://www.stats.gov.cn/zjtj/zdtjgz/zgrkpc/dqcrkpc/ggl/202105/t20210519\\_1817697.html](http://www.stats.gov.cn/zjtj/zdtjgz/zgrkpc/dqcrkpc/ggl/202105/t20210519_1817697.html)

2) 青木邦男: 在宅高齢者の孤独感とそれに関連する要因 - 地方都市の調査研究から - 社会福祉学: 第 42 卷 1 号, 2001 年

3) 安藤孝敏、長田久雄、児玉好信: 孤独感尺度の作成と中高年における孤独感の関連要因. 横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅲ (社会科学): 3.19-27, 2000 年

4) 张玉梅、朱文娟: 山东省农村老人孤独感影响因素分析. 农村经济与科技 30 (11), 2019 年